

体育授業における動機づけ雰囲気、目標志向性

および学習方略の関連

渡辺友也（新潟大学）

1. はじめに

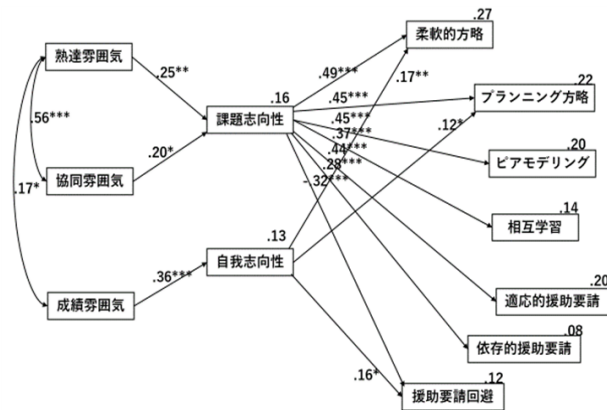
本研究では、学級における達成目標（動機づけ雰囲気）が子どもの学習方略の使用に影響を及ぼすプロセスを、個人の目標志向性を媒介要因として設定し、検討する。学習方略として、メタ認知的方略と、協同的な学習を設定した。

2. 方法

- 1) 対象者：小学5, 6年生児童 477名。そのうち有効な回答の得られた 199名が対象。
- 2) 調査方法：Google フォームアンケート
- 3) 分析方法：先行研究を参考に作成した質問紙へ回答から各変数の得点を算出し、統計ソフト SPSS (Ver. 16.0)、AMOS (Ver. 16.0) により統計処理を行なった。

3. 結果

共分散構造分析の結果（図1）、熟達雰囲気と協同雰囲気は課題志向性に対して有意な正の関連、課題志向性は全ての学習方略と有意な関連を示し、このうち援助要請回避とは負の関連を示した。成績雰囲気は自我志向性に対して正の関連、自我志向性はメタ認知的方略の柔軟的方略、プランニング方略、ピアモデリング、相互学習、適応的援助要請、依存的援助要請に対して正の関連が見られた。



GFI=.657 AGFI=.465 RMSEA=.090 CFI=.502
Chi-square=1437.136(250df) p.000

図1 パス解析図（全体データ）

4. まとめ

体育授業において、努力を重視する熟達雰囲気や協力を重視する協同雰囲気を作り出すことは子ども個人の努力を重視する課題志向性につながり、学習方略の使用を促進し、他者に助けを求めないという援助要請回避を抑制する働きも見られた。

一方で、他者との比較や成績を重視する成績雰囲気を作り出すことは、他者比較を重視する個人の自我志向性につながり、メタ認知的方略の使用と援助要請回避を促進する働きが見られた。

これらの結果から、体育授業において、熟達雰囲気や協同雰囲気を作り出すことは重要であると考えられる。一方で、成績雰囲気を作り出すことは、メタ認知的方略の使用にはつながるが、援助要請を行わないことにもつながってしまう可能性が考えられるため、注意が必要である。

5. 参考文献

- 1) 伊藤豊彦ら, 小学生の体育学習における動機づけモデルの検討: 動機づけ雰囲気の認知, 学習動機, および方略使用の関連, 体育学研究 58(2) : 567-583, 2013.
- 2) 藤田勉, 小学校体育における達成目標志向性と学業的援助要請の関係, 九州地区国立大学教育系・文系研究論文集 4(1, 2) : 1-13, 2017.
- 3) 佐藤純・新井邦二郎, 学習方略の使用と達成目標及び原因帰属との関係, 筑波大学心理学研究 20 : 115-124, 1998.
- 4) 岡田涼ら, 目標志向性が学業的援助要請, ピア・モデリングに及ぼす影響—小学生と中学生における差の検討—パーソナリティ研究 21(2) : 111-123, 2012.
- 5) 岡田, 友人との学習活動における自律的な動機づけの役割に関する研究, 教育心理学研究 56(1) : 13-22, 2008.